

19 寺畑助之丞 雪解

大正十一年(一九二二) 木彫  
一九・〇×一八・七×五一・〇

一点

朝鮮半島の風俗を身にまとった老人の木彫像である。頭頂部に鬘を結び、あごひげを生やした面長の顔、背の高い細身の体躯に、やや巨大に誇張された右手に握られた太い杖が大地に力強く突き立てられ、縦方向への垂直線が強調された造形となっている。箱の蓋表には「雪解人物」と墨書されるが、展覧会出品時の名称は「雪解」であった。その名の意味するところは不明であるが、作品表面には後期

印象派のゴッホの筆触を連想させる荒々しい鑿あとが強調されるなど、伝統木彫とは異なる大正期の新しい芸術思潮を象徴的に表している。

寺畑助之丞(一八九二〜一九七〇)は大正七年に東京美術学校彫刻科を卒業後、ソウルに赴任し朝鮮総督府技師として新庁舎の建築彫刻を担当した。技師として活動する一方で、第一回から第四回の朝鮮美術展覧会に出品し、評議員や審査員を務めた。本作は大正十一年にその第一回朝鮮美術展覧会第二部(彫刻之部)に出品された、現存が確認される作者唯一の木彫である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections